

# 第1章 管理区の概要及び長期的目標の設定

## 第1 管理区の概要

### 1 自然的・社会的条件（地理的条件、気象条件、主な産業等）

当管理区は、北海道の北西部に位置し、増毛町、留萌市、小平町、苫前町、初山別村の1市3町1村に所在しています。

西側は日本海に面し、南北に長い区域となっており、南部は暑寒別岳（標高 1,491m）を主峰とする増毛山地で石狩振興局及び空知総合振興局管内の境をなしています。

地形は山岳地帯と海岸近くまで続く丘陵地帯からなり、南部海岸線沿いではその大半が急峻で、かつ地質が新第三紀層に属していることから、落石等の山地災害が発生しやすい地域と言えます。

気象は、対馬海流の影響で比較的温暖ですが、秋から冬にかけて日本海側特有の北西からの季節風が強く、海岸付近では最大風速 20m/s 以上となることも多く、冬期間は、日常生活はもとより、樹木の生育にも厳しい環境にあります。こうした気象条件と粘土質の土壌が多い地域性から、成長の劣勢やアテ、ヌレ材が多いなどの特徴も有しています。

森林は、ほぼ全域が水源かん養、土砂流出防備などの保安林に指定されているほか、南部には「暑寒別天売焼尻国定公園」が広がり、水資源や国土保全、保健・文化などの森林を有する公益的機能の高度発揮のうえで重要な位置付けにあります。

地域の主な産業としては、次のものがあげられます。

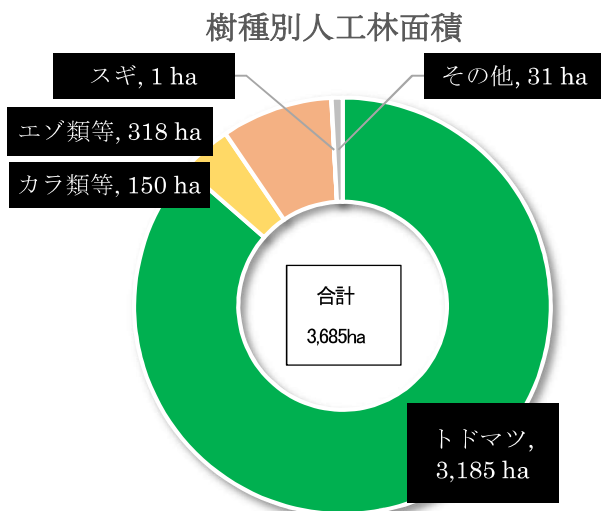
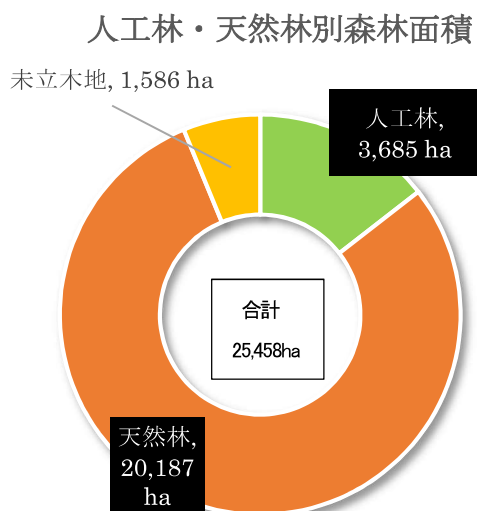
- ア 農業：異なる自然環境などの地域特性を活かし、南部では果樹、中南部では稲作や畑作、北部は酪農といったバラエティーに富んだ農業が営まれています。
- イ 水産業：エビ・タコ・ホタテなどの水産業が古くから盛んに行われており、これらの産業と森林の関わりは強く、季節風から耕地を守る防風効果や湖沼や海域に注ぐ水質保全など、森林に期待される機能も多岐に渡っています。
- ウ 観光：「暑寒別天売焼尻国定公園」や、海岸線は「日本海オロロンライン」の愛称で呼ばれ、美しい景観がドライブコースやサイクリングコースとして人気です。また、海水浴やフルーツ狩りの時期である夏季シーズンを中心に多くの観光客が訪れ、豊かな食やアウトドアスポーツなどを楽しんでいます。

### 2 森林資源の概要

当管理区の森林は、面積25,500 ha、蓄積2,508千 m<sup>3</sup> で天然林が79% (20,200 ha) で占められて、人工林は15% (3,700 ha) となっています。

天然林は、ミズナラ、カエデ類、カンバ類等の広葉樹林と、これらの広葉樹とトドマツの混交林で構成され、人工林は大半がトドマツで占められています

また、平均蓄積は天然林が93m<sup>3</sup>/ha、人工林が173m<sup>3</sup>/ha で、公益的機能の維持増進の観点から、資源の育成・充実に更に努める必要があります。



## 第2 長期的目標の設定

道有林基本計画での基本方針に基づき、当管理区における目指す姿及び目標の指標を以下のとおり定めました。

### 1 多様で先導的な森林づくり

#### (1) 目指す姿

森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させるためには、原生的な森林や里山等の二次林、溪流沿いにある森林、様々な樹種・林齢の人工林などがバランス良く配置されている森林を育成することが重要です。

このような多様な森林の育成は、自然災害や病虫害獣害に対する抵抗力や回復力を高めるとともに、生物多様性を確保するほか、水資源や生活環境の保全、さらには様々な樹種や径級の木材の供給など、地域の多様なニーズに応えることにもつながります。

このため、当管理区の整備・管理に当たっては、次のとおり多様な樹種や林齢、構造からなる林分がモザイク状に配置されている森林の育成を目指します。

#### (2) 目標設定の考え方

森林の有する多面的機能の持続的な発揮を図るため、発揮を期待する機能に応じて森林を区分し、森林施業の方法や森林を構成する樹種などに着目した分類(育成単層林・育成複層林・天然生林)を行って森林の整備を進める必要があります。

- ① 育成単層林 … 林種や林齢が同一の樹木により構成される単層の森林
- ② 育成複層林 … 複層林化した人工林や、施業を行った天然林など、複数の樹種や異なる林齢の樹木により構成される複層の森林
- ③ 天然生林 … 自然の推移にゆだね、天然力の活用により成立・維持される森林

#### (3) 目標の指標

森林の区分に応じた適切な森林の整備や保全の実施により望ましい森林の姿に誘導していくことが必要です。このようなことから、「目標の指標」(令和13年度)として次の項目を設定します。

区 分	令和13年度	(参考:令和元年度)
育成単層林	2,593ha	3,332ha
育成複層林	3,545ha	2,806ha
天然生林	19,320ha	19,320ha

### 2 資源や技術力を活用した地域貢献

#### (1) 目指す姿

道民生活に木材・木製品の利用が定着し、道有林の森林づくりに伴い産出される木材が有効に活用されることを目指します。

#### (2) 目標設定の考え方

地域の多様な木材需要に対応し、林業及び木材産業の適切な生産活動を支えるためには、低コスト森林施業により原木を安定的に供給することが重要です。

#### (3) 目標の指標

道有林において、造林から、保育、伐採までの森林施業のサイクルを着実に進めることにより木材を産出し、林業及び木材産業等の健全な発展に貢献することが必要です。このようなことから、「目標の指標」(令和13年度)として次の項目を設定します。

森林づくりに伴い産出される木材の量
令和13年度 15千 m <sup>3</sup>
(H29 から R2 までの実績平均: 12千 m <sup>3</sup> /年) ※立木換算